

2002 KITE MANUAL



CABRINHA

SOLID KITEBOARDING EQUIPMENT

販売側の責任回避と仮定できる危険

以下の内容に同意できない場合、この商品の使用を禁じます。
非常に重要な警告です。

IMPORTANT WARNING!

警告

以下の内容およびコンディションに同意できない場合、この商品の使用を禁じます。その際は使用前に商品の返却をお願い致します。また購入料金のすべてをご返却致します。

この商品をご使用になる前に、ユーザーズマニュアルを含むこの説明書を必ずお読みください。

このマニュアルにはインフォメーションを含めて参考になる事柄が記入されています。またリリース時期によって新たな項目が加わっている場合もあります。

www.cabrinhakites.com

弊社ホームページではマニュアルのアップデートが記載されております。

この商品をご使用になる方は、使用者に危険をおよぼす恐れがあるということを理解した成人に限ります。この商品の使用者はそういったリスクが起こった場合、それを享受しなければなりません。この商品をご使用になる前にユーザーズマニュアルを熟読し、理解していただくしなければなりません。この商品のユーザーは販売条件を理解し、それに同意していただかなければなりません。

この商品のユーザーは、ユーザーによる不注意な取り扱いでこの商品の使用時に起こるいかなる怪我や破損に対して販売店に一切の責任がないことに同意しなければなりません。またそれらの責任の移行は販売店からユーザーの手に商品が渡ったときから生じます。

カイトボーディングは成人向けのスポーツです。パワーカイトとそれにつながるライン、コントロール・エクイップメントは飛行している間、ユーザーや回りの人に危険をおよぼす可能性があります。カイトボーディングを行う際は真剣に行い、経験が浅いユーザーは経験豊富なカイトボーダーのレクチャーを受けることをお勧め致します。

カイトの使用方法が正しくない場合は、ライダーおよび回りの人に深刻な怪我または最悪の場合は死に至らしめる可能性があります。電線や空港、道路の近くでカイトを使用しないでください。カイトのフライングラインが人や物に触れないよう、注意してください。常に開けた場所でカイトを使用し、風や天候に留意し、特にオフショアや強風には注意が必要です。

陸上で完全にカイトの操作ができるようになるまで、海上でカイトを使用しないでください。ライダー自身と回りの人のために、カイトの操作に慣れるよう、陸上で十分に練習を行ってください。カイトを使用する際の安全面の責任は全てライダー自身にあるということを、絶えず頭に置いてください。このスポーツを練習する際には自己の限界に留意し、無理をしないようご注意ください。

水上でカイトを使用する際には、安全上必ず浮力体を身につけ、カイトとライダーをほどけないほどしっかりと繋がないでください。カイトを飛ばすための目的、および浮力体としては使用しないでください。

CONTENTS

コンテンツ

2002
KITEBOARDING
MANUAL

INTRODUCTION / イントロダクションPG. 4
SAFETY / 安全についてPG. 5,6
C111 KITE	PG. 7
SETTING UP YOUR C111 KITE / カイトのセッティングPG. 8-15
KITEBOARDING BASICS. / カイト・ボーディングの基本PG. 16-17
KITE CONTROL AND STEERING / カイトのコントロール方法と操作方法PG. 18
STARTING/SECURING THE KITE.PG. 19,20
LAUNCHING WITH A PARTNERPG. 21,22
SELF LAUNCH	PG. 23,24
LANDINGPG. 25
RE-LAUNCHING	PG. 26
KITE REPAIR / カイトのリペア	PG. 27-31
GLOSSARY	PG. 32-33
BEACH ETIQUETTE.	PG. 34

INTRODUCTION

2002
KITEBOARDING
MANUAL

新しいカブリナ・カイトのご購入ありがとうございます。そしてカブリナの世界へようこそ。

ご存知のとおりカイト・ボーディングの楽しさは世界中のあらゆる年齢の人々を魅了しています。もっともダイナミックに急成長している新種のスポーツのひとつということができるでしょう。それと同時にしっかりとその特徴を理解し、節度をもって行われなければならないスポーツでもあります。そのためにカブリナではこのユーザーズ・マニュアルを配付しています。これは新しいカイトを購入されたライダーの方がカイトに対する知識を深め、安全に使用するために必要なものです。さらにセッティングやメンテナンスなど、新しいカイトを水上で楽しく長い間使っていただくためのインフォメーションも多く記載してあります。

実際にカイトをご使用になる前にこのユーザーズ・マニュアルのすべてのページを熟読してください。また他人の道具でカイトに挑戦しないようご注意ください。これはライダー自身および回りの人の安全のためにも必要なことです。

 CABRINHA

SAFETY

カイト・ボーディングはいろいろな種目で、レベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし他のスポーツと同じようにリスクを伴っています。これからカブリナ・カイトを使用する際に覚えておかなければならない、安全上のキーポイントを紹介していきます。

- 必ずリストリーシュを装着してください。
- カイトおよびコントロールバー、ラインとライダーを離れないほど強く結ばないでください。
- カイトを飛行目的で使用しないでください。
- ブライダルラインやカイトに付属する全てのラインにテンションのかかった状態で、決してラインに触らないでください。
- 空気の入った状態のカイトは安全のため必ず砂などを上に置いてください。ライダーの手にない状態でもカイトの責任はライダーにあります。カイトが他の人や物を破損する恐れがあることに絶えず留意してください。
- 空気を入れた状態のカイトを人に貸さないでください。使用者は必ずユーザーズマニュアルを熟読する必要があります。

SAFETY GEAR

以下のプロテクション用ギアの使用をおすすめします

- グローブ
- 目の保護をするもの
- 日焼け止め
- 安全のためのナイフ
- ヘルメット
- ネオブレイン素材のウエットスーツ
- ブーツなど足を保護するもの
- 浮力体

風と海面、天候のコンディション

- 風のパワーを過小評価しないでください。
- オフショアのコンディションや真オンショアのコンディションは避けてください。
- 強風やガスティなコンディションは避けてください。
- 特にビギナーのうちには波のあるコンディションでは注意が必要です。
- 潮の満干やカレントを調べましょう。
- 気温や水温に留意し、それに適したウエットスーツを選びましょう。
- この商品を嵐のなかでは使用するのをやめましょう。
- 必要に応じて風速計を使用しましょう。

SAFETY

CONT

自己レベルの 確認

- 気軽な気持ちでカイト・ボーディングに取り組みないでください。
- 一人でのセイリングは禁止です。
- ランチングやランディング、ライディングはパートナーと行うか、ビーチで絶えず観察してくれる人が必要です。
- この商品を使用する前に良好な健康状態である必要があります。
- 実際のカイトを飛ばす前に、サイズの小さい『トレーニング・カイト』でカイトを飛ばす練習を行ってください。『トレーニング・カイト』で十分に練習を重ねることによって、より安全に上手にカイト操作を行うことができるようになります。
- この商品を水上で使うためには上手に泳げなければなりません。
- 自己レベルには風と海面のコンディションと大きな関係があるということを理解してください。コンディションに合わせて正しい道具のチョイスをしましょう。
- 泳いで帰れないほど沖ではカイト・ボーディングしないでください。
- 絶えず体力の温存をはかってください。疲れ切る前にカイト・ボーディングのセッションを終了してください。

- 実際にカイト・ボーディングを行う前に安全上の予防策をしっかりと頭に入れておいてください。ランチング、ランディング、フライイングの方法、および水上で使用する際の注意、レスキューの方法など。
- カイトを海の近くで使用する前に、自己レスキューの方法を身につけてください。
- インフレータブルカイトを扱ったことがない人にランチングやカイト・キャッチをさせないでください。そういった人に怪我を負わせてしまう恐れがあります。安全上の責任は全てライダーにあります。

カイト・ボーディング を行う場所

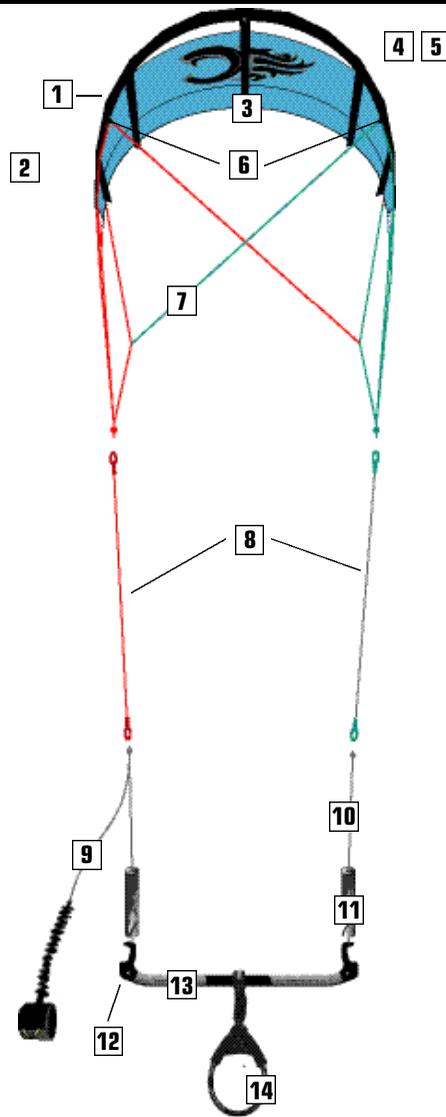
- カイトをランチングさせる前に必ず周囲をチェックしてください。
- 地元の規則を守ってこの商品を使用してください。
- 電線や電柱、木、人、ペット、建物、車、道路、空港の近くではカイトを使用しないでください。
- 人の多いビーチや波打ち際には使用しないでください。
- この商品を使用する際にはランチングやランディングに広いスペースを必要とすることを理解してください。
- カイトを使用する際、ライダーの左右、風下に少なくとも100mのスペースが必要です。特に風下には十分にスペースをとってください。
- ウインドサーフィンやジェットスキーなど他のマリンスポーツを行っている人、海水浴を行っている人に対して十分に注意してください。
- ランチング場所では風向きに特に注意してください。
- ランチングの前には、ランチング場所以外にも安全にランディングできるスペースを確認してください。
- 歩道や人の通る場所にラインが渡らないようにしてください。ライダーとカイトの間を他の人が通過しないようにしてください。

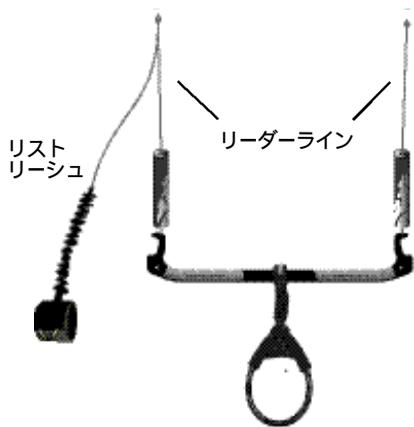


- 1** C-111カイト
- 2** 4-LINE使用のシステム
- 3** バテン
- 4** リーディングエッジ
- 5** エアロック・ハイボリューム・バルブ
- 6** プーリー
- 7** ブライダル (2-LINE用)
- 8** ステアリングライン
- 9** リスト・リーシュ
- 10** リーダーライン
- 11** パーフロート
- 12** マルチファンクションのバーエンド
- 13** 人間工学に基づいたコントロールバー
- 14** ハーネスループ

C-111に含まれるもの：

- カイト
- コントロールバー
- ハーネスライン
- リーダーライン
- フライイングラインのセット
- ブライダルライン (カイトに付属)
- ブラダー・リペアキット
- ハンドポンプ
- カイトバッグ





コントロールバーとリーダーライン、リスト・リーシュのシステム

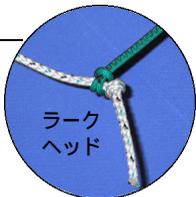
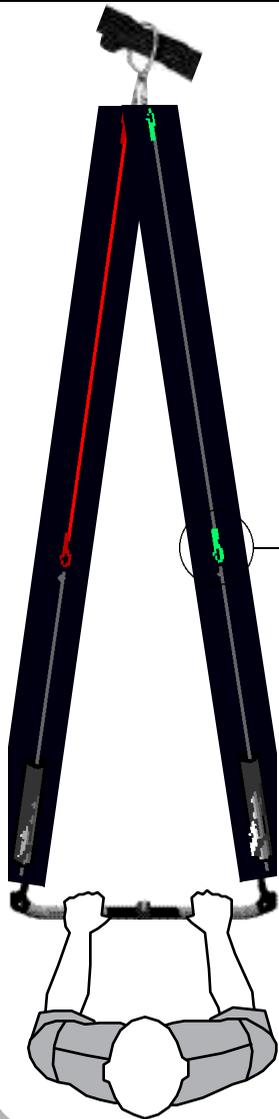
- 人間工学に基づいてつくられたコントロールバーには同じ長さの2本のリーダーラインがついています。リーダーライン上の結び目を動かさないでください。
- 1本のリーダーラインは2本のラインから構成されています。このラインにはリスト・リーシュのシステムが接続されています。
- リーシュを左右どちらの腕につけるか決めます。それによってバーの左右を決めます。

ワンポイントアドバイス: リスト・リーシュとボード・リーシュは反対側に取り付けます。例えばリスト・リーシュを左腕につける場合、ボード・リーシュは右足首に付けます。

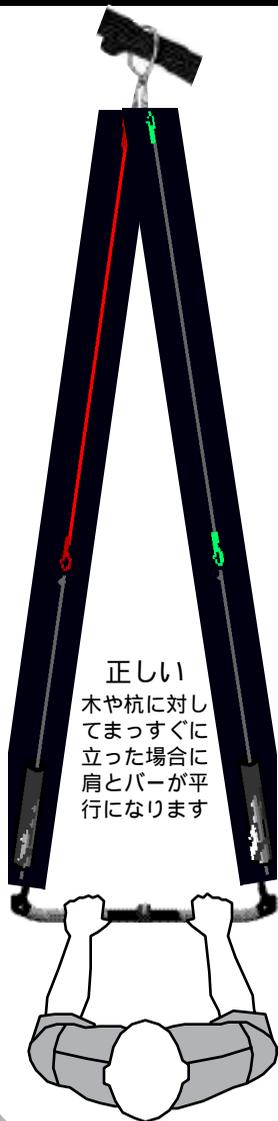
- **注意** 11.5以上のサイズのC-111カイトを使用する場合、フライングラインのエクステンションが必要です。リスト・リーシュが接続されているリーダーラインの端にエクステンションを接続してください。接続にはラークヘッドを用います。

ステアリングラインとコントロールバーの接続

新しいカイトを持って海上に出る前に
ラインの長さをチェックすることをお勧めします



- 1本のシートを木やフェンスの杭に巻き付けます。
- 端の長さが同じになるようにシートを結びます。
- それぞれのシートの一番端に結び目をつくります。
- バーをおよそ30mほど離し、**リーダーライン**を杭に向かって伸ばします。バーと杭の間に物や人がないことを確認してください。
- **ステアリングライン**を袋から出し、バーと杭の間に置きます。
赤いカバーがついた赤いラインは左
緑のカバーがついた黒いラインは右
- ラークヘッドを用いて赤いステアリングラインを左のリーダーラインに接続します。
- ラークヘッドを用いて黒/グリーンのステアリングラインを右のリーダーラインに接続します。
- 赤いラインを杭に結んだシートの左端に結びます。
- グリーンのラインを杭に結んだシートの右端に結びます。



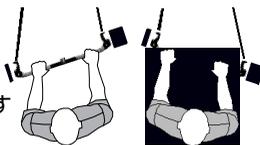
正しい

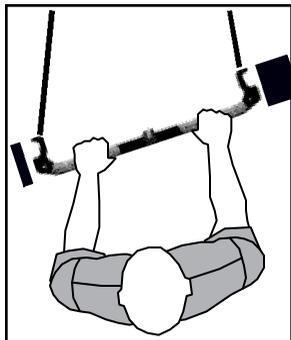
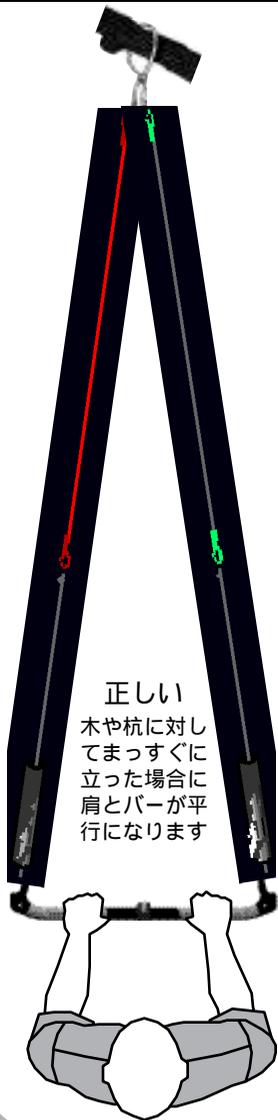
木や杭に対してまっすぐに立った場合に肩とバーが平行になります

CONT' ▶ ラインとコントロールバーの接続の続き

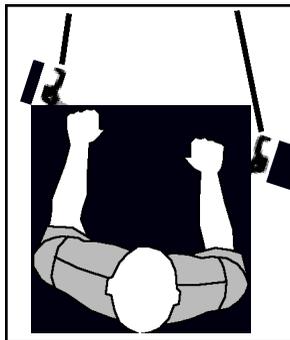
- コントロールバーのところに戻ります。
- 木や杭に対して正面に立ち、コントロールバーを引くように体重を後ろにかけます。この動作を何度か繰り返します。これによって作成した結び目がきつく締まります。
- コントロールバーを強くしっかりと引きます。
- コントロールバーは肩の高さに平行に持ち、バーに角度がついていないことを確認します。
- コントロールバーが肩と平行でラインが均等ならば、カイトを飛ばす準備は完了です。
- コントロールバーが不均等でラインにたるみがある場合、以下の項目に従います。

正しくない
ラインを均等に直します





リーダーラインが短かすぎ



リーダーラインが長すぎ

ラインの長さの調節

バーに角度がついている場合は、リーダーラインの長さを調節する必要があります。

1本のラインから構成させるリーダーライン（リスト・リーシュに接続していない方のライン）上の結び目を調節します。

リスト・リーシュがついたリーダーラインの結び目を変えないでください。

リスト・リーシュがきちんと働くように調節されているためです。

- リーダーラインが長い場合、リーダーライン上の結び目をバー方向に移動させます。
- ラインが短すぎる場合、ライン上の結び目をバーから遠ざけ、カイト寄りに移動させます。
- 結び目が硬く結ばれていることを確認します。コントロールバーが均等になるまで、必要に応じてこの動作を繰り返します。
- **ステアリングライン上に結び目を作らないでください。**ステアリングライン上の結び目はラインの動きを損ねます。





片手でバルブをしっかりと固定し、もう片方の手でポンプ操作を行います

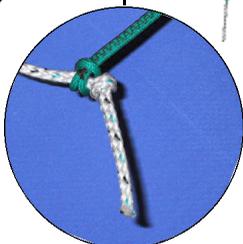
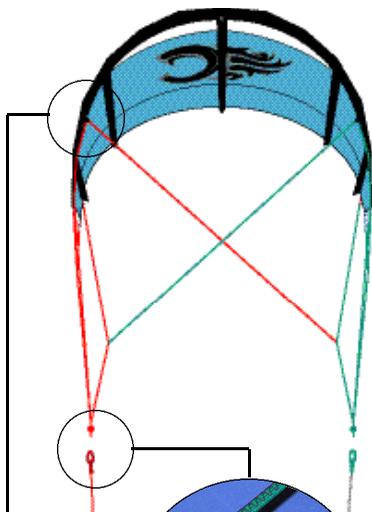


全てのバテンにベルクロカバーをしっかりとかけます

バテンへの空気挿入

- バテンが上を向く状態でカイトを地面に置きます。
- 風が吹いている場合、背中から風を受けるように立ち、カイトのリーディングエッジを身体の近くに持ってください。 空気を入れていない場合でもウイングチップに砂を乗せるなど、安全に気を配ってください。
- 最初に**中央のバテン**から始め、その左右のバテン、最後に両サイドのバテンに空気を入れます。
- 空気を入れる場合、カイトのバルブに対してポンプを垂直に持ちます。バルブを片手でしっかりと固定し、もう片方の手でポンプ操作を行います。この動作によって内蔵ブラダーの働きをサポートします。
- 全てのバテンに途中まで空気を入れたところで、最初のバテンに戻り十分な空気を送り込みます。
- 内蔵ブラダーがバテンの4角に行き渡っていることを確認します。内蔵ブラダーがきちんと入っていない場合、中に入っている空気を押すことによってスリーブの端までブラダーを移動させます。
- 内蔵ブラダーが正しい位置に入ったらバテンに十分な空気を入れます。
- バルブプラグがバルブにしっかりと入っていること、ベルクロがバルブをきちんとカバーしていることを確認してください。
- バテンを膨らませすぎないでください。触ってみて硬く感じられる程度で十分に膨らんでいます。
- バテンには十分に空気を入れてください。バテン内の空気が足りない場合、カイトの飛行やリランチのパフォーマンスを損ねる恐れがあります。





ラークヘッドを用いて
ラインを接続



プーリー

ステアリングラインとブライダルの接続

- コントロールバーから離れたフライングラインの端にカイトを持っていきます。リーディングエッジを風上に向けて移動させてください。
- カイトの裏側を地面につけるように（バテンが上を向くように）置きます。
- カイトの上に砂や砂袋を乗せるか、パートナーにカイトを持ってもらい安全に作業を行えるようにします。
- ブライダルにねじれや結び目がないことを確認します。
- 赤いラークヘッドを用い、ステアリングラインをブライダル上の赤い結び目に接続します。
- グリーンのラークヘッドを用い、ステアリングラインをブライダル上のブルーの結び目に接続します。
- ブライダル上の結び目がきちんと結ばれていることを確認します。
- プーリーがそれぞれ上向きになっていることを確認します。（プーリーは飛んでいる時は下向きになります）。
- またバテンがブライダルラインの妨げになっていないこと、プーリーの一部やカイトの一部にひっかかっていることを確認します。
- カイトを上向きに置き換え、おもりを置き安全に保ちます。



ビーチでの安全なカイトの扱い方

- 必要以上と思われるおもりを置き、カイトの安全に留意ください。人が操作していないカイトは大変危険です。砂浜でカイトを使用しない場合には、砂袋の用意をお勧めします。
- カイトのおもりに岩や尖ったものを使わないでください。カイトを破損する恐れがあります。
- 他のビーチユーザーに気を配り、カイトやラインが他の人の危険につながらないように、十分に注意しましょう。
- 休憩中など、カイト操作をしていないときはバーにラインを巻き付けておきましょう。これによってビーチでの事故を防ぐ可能性が高くなります。



C-111カイトの4ラインへの変更

C-111カイトの4ラインへの改造は簡単になりました。改造には同じ長さのフライングラインのセットとセンターライン、センターライン調節システムが必要です。カブリナ・パワードライバー・キットには4ラインによるコントロールシステムに改造するために必要な全てが揃っています。このマニュアルのブラックチップのページをご覧くださいとバーの取り付けに役立ちます。

ブライダルの取り外し

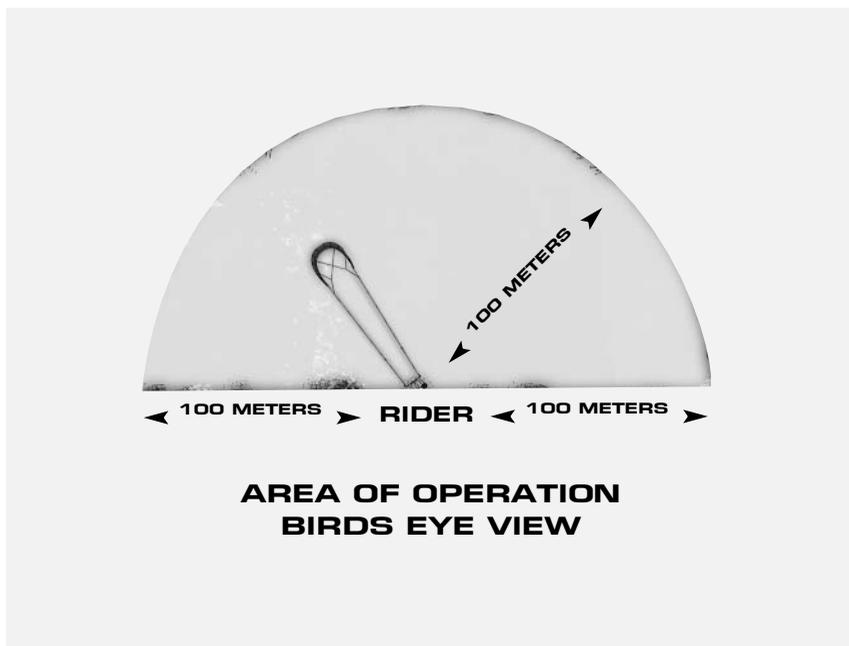
- 接続部分からそれぞれの後方ラインを取り外します。(図29参照)
- フロント部分にあるラークヘッドを緩め(ブライダルラインにクロスしているもの)後方ラインに接続します。(図30参照)
- 両側のフロントラインを接続されているポイントからはずします。(図31参照)
- ウイングチップを巻き、ウイングチップに縫いつけられているラダーロックで安全に保ちます。(図31参照)
- 4ラインカイトとして使用する準備は完了です。フロントラインとバックラインの接続ポイントはハングポイントに置き換わりました。4ラインのセッティングについてはこのマニュアルのブラックチップの項目をお読みください。



KITEBOARDING BASICS POWER ZONES

オペレーティング・ゾーン

使用エリア：両サイドとライダーの風下側に100mの余裕が必要です。(図27参照)ライダーおよび他の人、ペット、物に対する安全を確保するため十分なエリアがとれない場合は、カイトをランチングしないでください。



KITEBOARDING BASICS POWER ZONES

ニュートラル・ポジション：これはライダーの頭上にカイトがあるポジションです。(図参照)ライダーがコントロールバーを動かさず肩と平行に保てていれば、カイトはその状態を保ちます。このポジションはカイトが最もパワーを発しない、安定した状態です。ニュートラル・ポジションからカイトがラフした場合、カイトは早いスピードでライダーから遠く離れ、風下方向に向かいます。ライダーが安定状態に保っている場合、不意なブローが入ってカイトが動いても元の位置に戻ります。ニュートラル・ポジションはライダーがボードを装着するなど、カイトを一定の位置に保ちたいときにも用います。この状態にあるカイトでもパワーは保持していますので、状態を保つためには注意が必要です。この状態のカイトでもライダーを引く力があります。練習中のライダーにとって、カイトの最も安全な位置と言えるでしょう。

ニュートラル・ゾーン：ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリアです。飛行を開始するためにカイトを風上方向に向けるためのエリアです。この位置からカイトは最も強いパワーを発する状態に入ります。(図参照)このエリアもカイトの安全な位置と言えます。

パワー・ゾーン：ライダーの前あるいは横にあるこの位置のカイトは、ニュートラル・ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。(図参照)このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーはできるだけこのエリアでのカイトの使用を避けましょう。

パワー・ポイント：カイトのパワーを増長させるための一つの方法は、上空でカイトを上から下へ、下から上へと絶えず動かすことです。カイトを上空で動かすことによってリフトを生み、カイトはパワーアップします。特に練習中のライダーはこのことを頭に入れておいてください。カイトを動かすことによってパワーが生まれ、カイトはスピードアップしますので、そのための準備が必要です。風が足りないときにはこの特徴を利用し、プレイングに必要なパワーとスピードをつくり出すことが可能です。

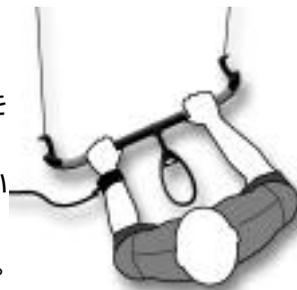


覚えておきたいキーポイント

- 陸上でカイト操作を練習している場合、カイトには非常にパワーがあるということを頭に入れておいてください。安全に十分に留意してください。
- 最初にカイトを飛ばす練習をする場合、カイトから目を離さないようにしましょう。
- ゆっくり操作しましょう。コントロールバーを急激に動かさないようにしてください。
- カイトのパワーを絶えず十分に考慮してください。
- 決して車のハンドルのようにコントロールバーを操作しないでください。カイト操作を困難にし、操作不能に陥る可能性があります。

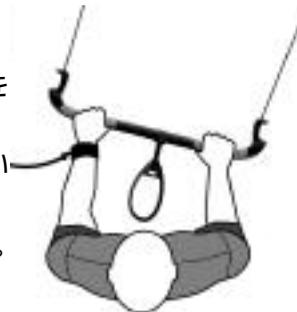
カイトを左に移動させる方法

- 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。
- カイトから目を離さない状態で、左手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。これは左ひじを曲げ、右ひじを伸ばすような形になります。
- ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは左回転し続けます。
- カイトをニュートラル・ポジションに戻す準備をします。



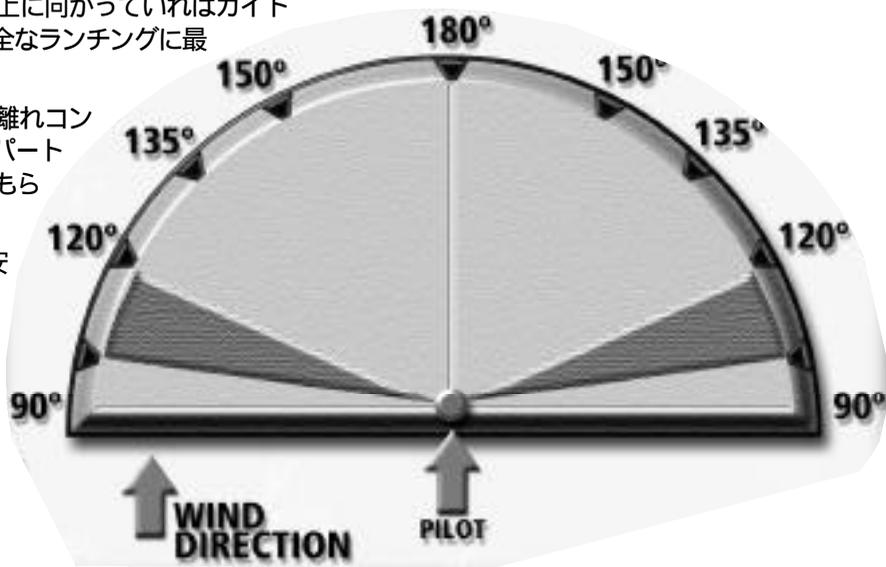
カイトを右に移動させる方法

- 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。
- カイトから目を離さない状態で、右手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。これは右ひじを曲げ、左ひじを伸ばすような形になります。
- ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは右回転し続けます。
- カイトをニュートラル・ポジションに戻す準備をします。



ランチングの準備

- ライダーの左右と風下側に100m以上なにもないスペースを確保します。
- ライダーが立つポイントより風下側にカイトがランチングすることを考慮し、道具を置きます。
- **ライダーの真風下でカイトをランチングしないでください。** このエリアのカイトはパワーがありすぎるためライダーや周りに危険を及ぼす可能性があります。周りの安全に十分留意してください。
- 基本的にライダーが背中から風を受けている場合、真風下は180度の角度となります。ライダーの左右100度の角度で風下側にカイトがセッティングされるようにしてください。(図33参照)
- ランチング時にカイトが風上に向かっていけばカイトのパワーは少ないので、安全なランチングに最適です。
- ライダーがカイトから30m離れコントロールバーを持つまで、パートナーにカイトを持ってもらう方法が理想的です。
- ランチングはゆっくりと安全に行ってください。カイトのランチング時の角度を考え、決して真風下からランチングしないでください。



カイトを安全に扱う方法とラインのレイアウト

- まずカイトの表を下向きにし、ランチングのためにパートナーに持ってもらいます。(砂や砂袋を使いカイトの安全に十分に留意してください) 次にカイトのラインをほどきながらランチングする場所に歩いていきます。
コツ：カイトとラインが繋がっていない場合、カイトの端を砂や砂袋で固定し、風で飛ばされないようにしてからラインをつなぎます。
- バーを地面に置きます。
- ラインに沿って歩き、ラインにねじれや余分な結び目がないことを確認します。4ラインのブラックチップカイトを使用する場合は、最初に赤いラインを確認し後にグリーンのラインを確認します。
- CO2カイトではマニュアルの3から4ページに、ブラックチップではマニュアルの10から11ページに書いてある説明に従いカイトとラインを結びます。
- ねじれや余分な結び目がない状態でラインをまっすぐに置くことが大切です。ラインがまっすぐになっていない状態のカイトは操作しにくく、周りの人を危険に陥れる可能性があります。
- ランチングの準備は完了です。



パートナーとのランチング

- ラインやギア、ランチング場所のチェックが終了したら、カイトをランチングする準備は完了です。
- リストリーシュを正しい方の腕に取り付けます。
- 風下100度のところにカイトを持ってパートナーに立ってもらいます。
- パートナーにはリーディングエッジの中央を持ってもらい、リーディングエッジが垂直に風に向かうようにします。(図34a参照)
- パートナーはカイトの裏側に立ち、カイトの横や前に立たないようにします。(図34b参照)
- パートナーが決してブライダルやフライングラインに**触らない**よう、注意してください。
- コントロールバーを持ち、フライングラインのたるみを取り除くために数歩後ろに下がります。
- カイトを離すよう、パートナーに合図します。カイトがパートナーの手を離れた瞬間からライダーがカイト操作を行います。
- パートナーはカイトを上空に**投げたはけません**。ランチング前にパートナーに実際にカイトを投げてみせましょう。上空に投げられたカイトはその性能を発揮することができず、通常通りのランチングをすることができません。その際カイトは強すぎるパワーを発するか全くランチングしない状態になります。この方法は**危険なランチング**です。
- カイトを離れたパートナーは、ライダーの風上に移動し、ライダーの妨げとならないようにします。

CONT'

パートナーとのランチングの続き

- 両腕を伸ばし、ゆっくりとカイトをニュートラル・ポジションに移動するよう操作します。操作方法はカイトの上部に繋がっているバーの片側をライダーの身体近くにゆっくりと引きよせることです。急激な動きは避けましょう。十分にカイトをコントロールしながら、ゆっくりとニュートラル・ポジションにカイトを移動させます。
- ニュートラル・ポジションにカイトを保つ場合、腕を頭の上で伸ばしバーは地面と平行に保ちます。
- 絶えずカイトに注意を払いながら水際まで歩きます。その際以下のことに絶えず留意してください。
- **ランチングの最中にハーネスをかけないでください。**ハーネスをかけた状態は安全ではありません。必要に応じてリスト・リーシュのシステムを使用します。
- ランチングの最中に何か問題があった場合、バーを離してリスト・リーシュを活用してください。
- **警告：**ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップしていきます。そのためにもゆっくりとしたカイト操作が不可欠です。

セルフ・ランチング

- カイトのリーディングエッジを風上に向け、風向きから100度から110度の方向にリーディングエッジを下にして地面に置きます。
- カイトが飛ばないように、砂や砂袋で固定します。
- カイトからラインをほどき、ライダーがランチング時に立つ位置まで伸ばします。
- ラインとギア、ランチング場所のチェックを行い、セルフ・ランチングの準備は完了です。カイトを表向きにしリーディングエッジが風上に向かうように置き換えます。
- ウイングチップのボトムを（地面に一番近い部分）カイトに重ねるように折り曲げます。一番近い位置のあるパテンまで折り曲げましょう。（図35a参照）
- 折り曲げたウイングチップに砂や砂袋など、重りを乗せます。（図35b参照）
- セルフ・ランチングの場合、フライイングラインとプライダルはパテンの上に乗らないようにします。（図35c参照）
- 急いでバーのところに戻ります。



セルフ・ランチングの続き

CONT'

- リスト・リーシュを正しい位置に取り付けます。
- コントロールバーを両手で胸の高さに持ち、フライングラインのたるみを除くために数歩後ろに下がります。
- この動作によりウイングチップに乗せた砂や砂袋などの重りがウイングチップから落ちます。(図 35cと 36参照)
- カイトの上部につながるバーの片側を引き寄せることによって、**ゆっくり**とカイトを上空へ移動させます。急激な動作は避けてください。ゆっくりと操作すれば、コントロールしやすく安全にカイトをランチングできます。
- 数歩後ろに下がるとカイトは上空に浮かび、風をつかんだカイトは上昇を続けます。
- **ゆっくり**とカイトをニュートラル・ポジションまで移動させます。
- ニュートラル・ポジションにカイトを保つ場合、腕を頭の上で伸ばしバーは地面と平行に保ちます。
- 背中から風を受ける状態でゆっくりと水際に向かいます。カイトに神経を集中させてください。その際以下のことに絶えず留意してください。
- **ランチングの最中にハーネスをかけないでください。**ハーネスをかけた状態は安全ではありません。必要に応じてリスト・リーシュのシステムを使用します。
- ランチングの最中に何か問題があった場合、バーを離してリスト・リーシュを活用してください。
- **警告:**ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップしていきます。そのためにもゆっくりとしたカイト操作が不可欠です。
- **警告:**セルフ・ランチングの際、**ラインをレイアウトする前にランチングしない**ようご注意ください。ラインを正しくセッティングした後、ライダーがセルフ・ランチングする場所に立ってから行うようにしてください。ラインをほどこしている間にカイトが飛ぶ恐れがありますので、十分ご注意ください。

パートナーとのランディング

- ランチング前に必ずランディングに必要なスペースを確保しておきましょう。
- 水際に向かうときにも、ランディングの場所に人がいないことや障害物がないことを確認します。
- カイトの近くや風下に何かある場合、ランディングしてはいけません。人やベット、電線、木、その他障害物がない場所でランディングしてください。
- パートナーがきちんとカイトをランディングできるようガイドしてください。
- 水際に近付いたらカイトをパワーウィンドウの端、水面に近付けます。
- ボードから飛び下りて水際までの最後の距離はボディドラッグで進みます。スピードをつけて水際に近付いてはいけません。
- ゆっくりと風上のパートナーのところにカイトを移動させます。
- パートナーは風上方向からカイトに近付きます。
- カイトが地面に付きそうになったところで、パートナーはリーディングエッジの中央部分を掴みます。パートナーはランチング時と同じ箇所を持ってください。(図37aと 37b参照)
- パートナーはブライダルや**フライングラインを持たない**よう、注意してください。
- パートナーが**ウイングチップを持たない**よう、注意してください。ウイングチップを持たれたカイトはフリップやスピンなど、回転動作を行います。この状態のカイトは扱いにくく危険です。
- パートナーはカイトのリーディングエッジを持った後、水際から離れます。
- パートナーはカイトを持ち続けるか、あるいはバテンを地面につけリーディングエッジを風上にして置き、砂や表面が平らな物をおもりにした状態で地面に置きます。
- カイトを安全にランディングさせた後、ラインを巻きましょう。



C-111カイトのリランチ

- 重要なポイント：リーディングエッジを含め正しくバテンに空気が入ったカイトは海上でのリランチが可能です。水に入る前にカイトに十分な空気が入っているか確認しましょう。
- C-11カイトが水面に落ちた場合、ライダーの意志とは関係なくカイト自体がリランチすることを覚えておきましょう。カイトが水面に落ちた場合は心構えが必要です。
- カイトがフェイスから海面に落ちた場合、リーディングエッジとバテンは水に浸かります。この状態からカイトをリランチの状態まで操作します。
- バーの片側を引き寄せ、もう片側を突き出します。この動作によってカイトのボトムラインをひっぱりトップラインにたるみを持たせます。
- しばらくこの動作を続けます。カイトは反応しますが、特に微風時には反応スピードが遅くなります。
- カイトはゆっくりとウインドウインドウの端に移動します。
- カイトがウインドウの端まで移動したら、バーの反対側を引くことによってトップラインに力を加えます。これによってカイトが上空へ上がります。バーを高く持ち上げ、ゆっくりとカイトをニュートラル・ポジションまで移動させます。
- カイトが海面に落ちる際に操作しやすい状態で落ちることがあります。この場合はカイトのリランチに備え、不意なブローに注意しましょう。C-111カイトの場合、カイトが自動的にリランチするスピードが早いので、絶えずそれに備えておく必要があります。



大きな引き裂け

カイト・ファブリックに引き裂けができた場合、販売店にカイトのリペアをしてくれるロフトを紹介してもらいましょう。

小さい引き裂け

カイト・ファブリックの小さい引き裂けはカイトリペア・テープで修復可能です。リペアテープは販売店で購入できます。

- カイトをきれいにし完全に乾かします。
- カイトを平らで凹凸のないきれいな所に広げます。
- 引き裂けが完全に隠れる程度の大きさにリペアテープを2片切ります。
- リペアテープのひとつで引き裂けの片側を注意しながら完全に被います。カイトの表面にテープをこすりつけて密着させましょう。
- 引き裂けの逆の面にもうひとつのリペアテープを張り付け、同じように密着させます。
- 両面のテープがしっかりと接着されていることを確認します。





バーチカル・ブラダーのリペア

覚えておきたいポイント：

- カイトのブラダーのひとつをリペアする前に、カイトがきれいな状態で完全に乾いていることを確認します。常にポンプとブラダーには砂がついていない状態を保ち、完全に乾かして汚れを拭き取ります。
- バテンに空気が入っていないことを確認します。
- ビーチや汚れた場所、埃の多い場所、風が吹いた場所でのリペアは避けてください。風がないきれいで乾いた場所がリペアに最適です。さらに床など、下がスベスベした所が理想的です。
- ブラダーをリペアする前にフライングラインのセットとブラダー・リペア・キットを用意します。

垂直ブラダーのリペア：

- バテンを上に向けてカイトを置きます。
- 傷付いたバテンのバルク口開閉口をはずします。これによってバテンのスリーブを開き、ブラダーを取り出すことが可能になります。(図38参照)
- バルク口開閉口からバルブプラグを取り外し、バテンのスリーブとノズルを離します。これによってブラダーがスリーブから離れます。バルブプラグは後のために大切にしておきます。
- バルブノズルのひとつにフライングラインを結びます。ノズルの根元にしっかりと結びましょう。バルブのノズルを通して結ばないでください。破損の恐れがあります。(図39参照)
- バテンのスリーブにゆっくりとノズルを差し込みます。(図40参照)
- スリーブの底に手を当て、スリーブからそとブラダーを引き抜きます。その際フライングラインはスリーブに通したままにしておきます。(図41参照) スリーブにフライングラインを通したままにするのは、リペアが終わった段階でブラダーを元の位置に戻しやすくするためです。
- ブラダーに空気を送り込み、バルブを差し込みます。
- 穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、大量に水がある場所の方が楽に動作を行うことができます。

CONT'



- 泡の発生によって穴の位置を見分けます。
- 空気が漏れている箇所を見つけたら、穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。(図42参照)
- 柔らかいタオルでブラダー全体の水気をきれいに拭き取ります。
- ブラダーから空気を抜きます。
- 接着剤を使うか、ブラダー・リペアキットの中にあるパッチを使うか決めます。
- 穴がシームにかかっている場合には接着剤が必要になります。
- 穴がブラダーの平らな面の一部にある場合には、パッチのひとつの裏紙をはがし、パッチをブラダーに張り付けます。穴を完全に被うように注意します。(図43参照)
- 完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーをそのままにしておきます。
- 再びブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったかどうかチェックします。
- ブラダーから空気を抜きます。
- バルブプラグを引き抜き、ベルク口開閉口からパテン内に戻します。
- パテンの端にフライングラインを結び、バルブノズルまで開きます。
- パテンの端にブラダーを平らに置き、スリーブにブラダーに戻します。
- ノズルをゆっくりとスリーブに戻し、ブラダー全体がスリーブに入るようにします。(図44参照)
- ノズルはスリーブから離れているのでスリーブに通したフライングラインを抜きながら慎重に作業を進めます。
- ブラダーが元の位置に戻ったら、スリーブのホールにノズルを差し込み、フライングラインをほどきます。
- スリーブの底にベルク口を取り付けます。
- ノズルプラグを取り付けます。
- スリーブの4つ角までブラダーが行き渡っているかどうか調べるために、パテンに空気を入れます。
- 完全にパテンに空気を入れてチェックが終わったら、空気を抜いてカイトを片付けます。

リーディングエッジ・ブラダーのリペア 覚えておきたいポイント



- バテンが上を向くように置きます。
- リーディングエッジの両端についているベルクロの開閉口を開きます。これによってバテンのスリーブが開き、ブラダーに触れるようになります。(図45参照)
- ベルクロ開閉口からバルブプラグを取り外し、バテンのスリーブとノズルを離します。これによってブラダーがスリーブから離れます。バルブプラグは後のために大切にしておきます。
- フライイングラインを2セット用意します。リーディングエッジの片側からラインを通し始め、ラインの片方の端をブラダーのウイングチップに結びます。ラインはしっかりと結びましょう。同じ動作を反対側のリーディングエッジの端にも行います。(図46参照)
- スリーブの内側にノズルを慎重に押し込みます。
- リーディングエッジのノズル近くにあるベルクロ・ポケットからブラダーを触ることができるようになります。(図47参照)
- ブラダーの片側をスリーブから抜き出します。フライイングラインはスリーブに通ったままにしておきます。スリーブに通ったフライイングラインはリペア後ブラダーを元の位置に戻す時に使います。(図48参照)
- ブラダーに空気を入れます。
- 穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、大量に水がある場所の方が楽に動作を行うことができます。泡の発生によって穴の位置が分かります。
- 空気が漏れている箇所を見つけたら、穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。(図49参照)
- 柔らかいタオルでブラダー全体の水気をきれいに拭き取ります。
- ブラダーから空気を抜きます。
- 接着剤を使うか、ブラダー・リペアキットの中にあるパッチを使うか決めます。
- 穴がシームにかかっている場合には接着剤が必要になります。
- 穴がブラダーの平らな面の一部にある場合には、パッチのひとつの裏紙をはがし、パッチをブラダーに張り付けます。穴を完全に被うように注意します。(図50参照)

CONT

- 完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーをそのままにしておきます。
- 再びブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったかどうかチェックします。
- ブラダーから空気を抜きます。
- バルブプラグをノズルから引き抜き、ベルク口開閉口からリーディングエッジ内に戻します。
- ブラダーの端にフライングラインを結び、バルブノズルまで開きます。
- ブラダーをポケット近くに平らに置き、蛇腹状に畳んでスリーブに戻しやすくします。(図51参照)
- 片側からスタートしポケットからブラダーを元の位置に戻していきます。
- リーディングエッジの片側に歩いていき、スリーブを持ちながらフライングラインをゆっくりと引きます。ブラダーがゆっくりとスリーブ中の元の位置に戻ります。
- ブラダーの逆サイドにも同じ動作を行います。バルブノズルがホールの近くまで移動し、ブラダーがしっかりとスリーブ内に修まるまで同じ動作を続けます。
- ブラダーは元の位置に戻ったら、ノズルをホールからスリーブに戻します。
- スリーブの両サイドにあるベルク口開閉口を元に戻します。
- ノズルプラグを取り付けます。
- スリーブの4つ角までブラダーが行き渡っているかどうか調べるために、バテンに空気を入れます。
- 完全にバテンに空気を入れてチェックが終わったら、空気を抜いてカイトを片付けます。

カイトに関する用語

トレーニングカイト/カイト・ボーディングに使用するカイトの動きをシミュレーションする陸上で使用する練習用カイト。非常に優れたトレーニング用の道具です。サイズは小さくても十分なパワーがあるので、使用時には注意が必要です。

インフレータブル・カイト/浮力を持たせるように空気をいれたチューブのついたカイト。ウォータースタートが簡単に行えます。

2ライン・インフレータブル・カイト/2本のフライングラインと空気を入れるチューブがついたウォータースタートが簡単に行えるカイト。このタイプのカイトにはブライダルがついています。

4ライン・インフレータブル・カイト/4本のフライングラインと空気を入れるチューブがついたウォータースタートが簡単に行えるカイト。このタイプのカイトにはブライダルがついていません。

パテン/カイトの外側を被うファブリック製の部位。空気を挿入しカイトの骨組みとなる内蔵ブラダーを被います。

ブラダー/リーディングエッジとパテンに内蔵された空気を挿入するチューブ。(自転車のタイヤのように内側

に空気を入れるチューブが入るシステムになっています)

ランチング/パートナーの手からカイトを上空に上げる動作。

セルフ・ランチング/パートナーなしでカイトをランチングするテクニック。ライダーの準備が完了するまで砂やおもりをウイングチップに置いて行きます。

リランチング/海面に落ちたカイトをライダーが操作し、再び上空に戻すこと。

ボディドラッグ/カイトを上空に上げながらボードを使わないテクニック。主に練習中に用います。カイトの飛行とリランチング、自己レスキューの方法を学びます。

ウォータースタート/ライダーが水中にいる状態から立ち上がり、ボードに乗ること。

ジャイピング/ライダーが乗っているボードの向きを変えること。スタボータックからポートタックに、またその反対に移ることを言います。

ブレーニング/ボードが水面を滑走する状態。

ランディング/ライダーが海上から操作を続け、水際にいるパートナーの手にカイトを渡すこと。

コントロールバー/カイト操作を行う

道具

ハーネス/コントロールバー上にありハーネスラインにかけることができるライダーが身につける道具。ライダーがこれを用いて体重をかけてリーディングすることによって、ライダーの体力の温存や筋肉疲労を防ぐ働きをします。最も一般的なのはウエストハーネス(胴回りに巻くタイプ)とヒップハーネス(胴回りに取り付け大腿部にストラップがあるタイプ)。

カイト・ボーディング/水上でカイトのパワーを用いるスポーツ。

カイト・サーフィン/波のある水上でカイトのパワーを用いるスポーツ。

オーバーパワー/ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが強すぎる状態。

アンダーパワー/ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが弱すぎる状態。

リーチ/風向きに相対するカイトが動く方向。通常は風下に対して60から160度の方向。

ラル/風(ブロー)が抜けた箇所。ガステイなコンディションでブローが抜けた状態のことを言います。

ラフ/風が抜けた状態のカイトに起こる現象。

風に関する用語

オンショア/水面から陸に向かって垂直に吹く風。水際でカイトを使用するときに便利な風向き。

サイドショア/陸に向かって左もしくは右から吹く風。カイト・ボーディングに理想的な風向き。

オフショア/陸から水面に吹く風。水面でカイトを飛行させてはいけな風向き

サイドオフショア/陸の左もしくは右から水面に向かって吹く風。オフショアとサイドショアの間風の向き。水面でカイトを飛行させてはいけな風向き。

サイドオンショア/水面の左もしくは右から陸に向かって吹く風。オンショアとサイドショアの間風の向き。水面でカイトを飛行させてもいい風向き。

ガスティ/風がコンスタントに吹かず、強弱がある状態。

ダウンウインド/風下。風が吹いていく方向。

アップウインド/風上。風が吹いてくる方向。

リウォード/カイト・ボーダーの風下側。

ウインドワード/カイト・ボーダーの風上側。

ノット/スピードや風速の単位。海里に基づいて計算される。
1ノット=1時間で1海里進む速さ。
1ノット=1.15mph.

MPH/スピードや風速の単位。マイルに基づいて計算される。1mph=1時間で1マイル進む速さ。1 mph = 1 mile per hour.

ポーフォート風力級風が起こす諸現象（波の様子、煙りの流れなど）によって階級をつけたシステム。このシステムによって風の強さを表す機械はあまりない。

(0=なき ~ 12=台風)

ビーチエチケット

ビーチや海面を他のユーザーと

共有するための基本的なエチケットです。

セッティング

- 使う道具だけをセッティングしましょう。
- 十分なスペースがあるところでセッティングしましょう。
- 他のビーチユーザーのことを十分に配慮し、セッティングしましょう。
- 使用時以外はライン類を巻いておきましょう。
- ランチング時には絶えず他のビーチユーザー、海面にいる人のことを配慮しましょう。
- 他のビーチユーザーに譲る心を持ちましょう。
- すぐに使用しないカイトは空気を抜いて片付けましょう。
- 常に必要に応じて他のカイト・ボーダーの助けを借りられるようにしておきましょう。
他のカイト・ボーダーと助け合いましょう。

安全

- このマニュアルの安全について記載されている項目を熟読しましょう。
- 使用ビーチに掲げられている看板に注意し、従いましょう。
- 一般的な安全認識に従いましょう。
- バーやカイトなど、他の人の道具に触ったり、チューニングをしたりしないようにしましょう。

